

第324回 医科研究会 報告

(7月6日、じゅうろくプラザ)



在宅がん緩和の実施について

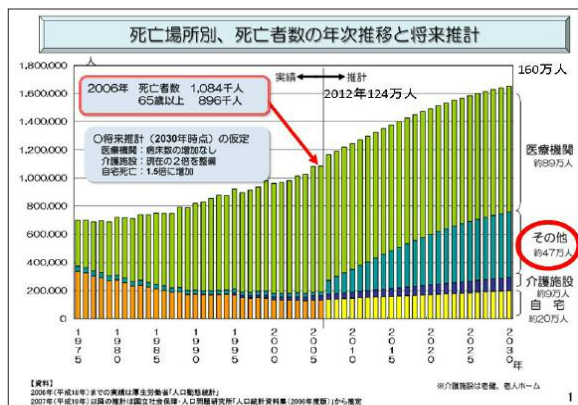
～ 7つのステージとその対応 ～

総合在宅医療クリニック 代表 医師・介護支援専門員 市橋亮一

1. はじめに

本格的な高齢多死社会を迎え、厚生労働省の試算では、2030年に死亡する患者のうち、47万人は施設、病院、在宅でも引き受けることが困難で、どこで亡くなることになるのか現時点では不明とされている(図1)。その担い手として、在宅医療は考えられているが、今回はその中でもがん患者の看取りのために必要な基本知識を、医師、歯科医師、その他医療スタッフなど多職種向けの初級研修として行った。

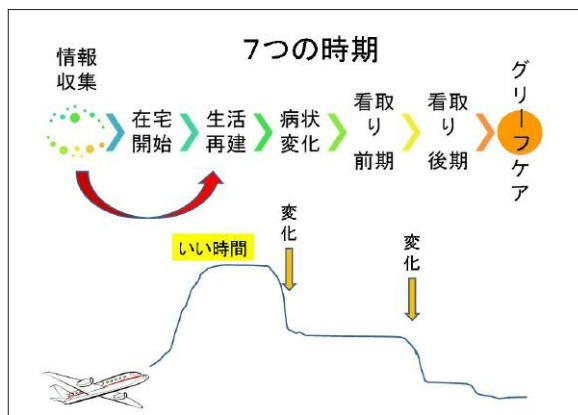
(図1) 死亡場所別、死亡者数の年次推移と将来推計



2. 在宅がん緩和における7つのステージとは

患者が家に帰ろうと決心してから、最後までプロセスはおおよそ7つの時期に分けることができる(図2)。○患者や患者家族が、在宅資源の情報を収集して家に帰る準備をする「在宅準備期」。○病院で行っていたことを家で行うことができるように“在宅向けに翻訳し”在宅生活を開始する「在宅

(図2) 病院から在宅まで7つのフェーズ



開始期」。

○家で生活パターンを取り戻し、生活が安定してくるとともに、自分のやりたいことなどを考え始める「生活再建期」。

○安定していた生活再建期の後に突如として病状が変化し、体調がやや悪くなる「病状変化期」。変化した病状に対して病院での治療が望ましいかどうか再検討する時期。

○本人に意識があり、本人の意向も取り入れながら変化に対応することを目指す「看取り前期」。在宅生活を継続することを選択した場合、トイレなどへ行くことそのものが難しくなるようなADLの低下を示す。それに伴って介護の体制を大幅に変更せざるを得なくなる。

○薬などの治療が導入され再度安定し、苦痛などは無いものの本人との意思疎通がやや難しくなり、そして最期の看取りを行う「看取り後期」。

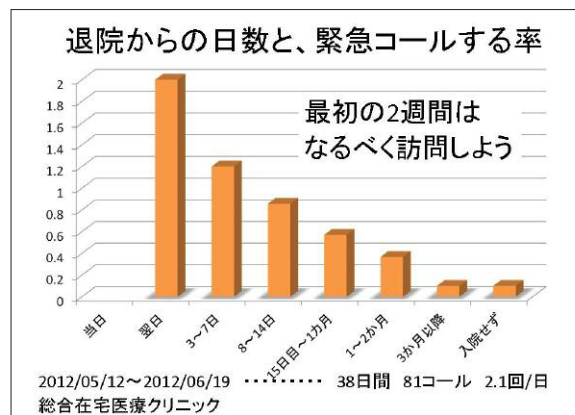
○看取り後の「グリーンケア」。

以上7つのステージでは、それぞれ取り組むべき課題と対応策が異なるので以下に概説する。

3. 在宅準備期・在宅開始期・生活再建期…つなぎめのない在宅移行が目標

私たちの経験から、つなぎめのない在宅移行に重要なものは①退院カンファレンスでの情報と信頼関係の引き継ぎ、②退院日に訪問することでの在宅環境の確認、③退院後2週間の手厚い訪問、という3点である。ここでは特に③の退院後2週間の間の訪問を多めにするについて解説する。当院の緊急コールの頻度を検討した図を示す(図3)。退院日から日にちが浅いほど緊急コールがかかってくる頻度が多くなる。当院

(図3) 退院からの時間と、緊急コールの頻度



では退院日には訪問することを原則としているので、退院日のコールは少ないものの、2週間までは家族も不慣れなことからコールに結びつくことが多かった。そこでこの時期にやや厚めに対応することで緊急コールは減らすことができ、患者・家族は安心して在宅生活をスタートできる。

4. 生活再建期…「もっと良くなってから」と待たずに、やりたいことを

在宅生活にも慣れて余裕が出てくると、時に外出や旅行などの話が出てくる。「もう少し良くなってから」と思わずに、この時期に後悔しないようにさまざまやりたいことをやってもらうように伝える。ここで活動がある程度できると、家に帰ってきたことの価値が著しく上がり、満足した在宅生活に結びつくことが多い。残りの時間や病状が正しく見積もられ、伝えられていないとこのタイミングを逃しやすい。

5. 病状変化期・看取り前期・看取り後期…最後まで家族が病状変化を受け止められるように支援

生活再建期のあと、さまざまな形で病状が突然変化する日が訪れる。どのような身体変化が起こりうるかは予め、冊子などを使用しながら家族に説明することが望ましい。そして家族の間で、今後の方針について話し合っておいてもらう。また、ホスピス病棟1002例の検討では、15.4%が突然に亡くなることが指摘されている(淀川キリスト教病院緩和ケアマニュアル 第5版)。重篤な状況にある患者では突然亡くなる可能性があることを家族に伝えておくことも、患者家族の準備を促すために重要である。

6. おわりに

当日は、当院で使っている「大切な人との別れの準備」という3部構成の患者さんご家族向けパンフレットの解説と、使い方をワークショップ形式での実践を行った。冊子は平成24年 厚生労働省在宅医療連携拠点事業で当院が作成したものであり、ご希望があれば郵送料のみでお分けすることができるのでご連絡いただければ幸いです。

(renkeikyoten@sogo-zaitaku.jp)